

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670600416		
法人名	ヤマト株式会社		
事業所名	ニングルの森北白川		
所在地	京都市左京区浄土寺石橋町69番地		
自己評価作成日	平成25年11月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地
訪問調査日	平成25年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣に哲学の道があり、少し行けば、寺院がたくさんあります。春は桜、夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪景色と、散歩しながらでも、四季を贅沢に味わえる場所となっており、皆様外に散歩に行かれる事を毎日楽しみにされています。

現在、力を入れて取り組んでいる事は、ご利用者の生活習慣の尊重や馴染みの場所や物に触れる機会をなるべく多く提供できるようにすることです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

京都市内の銀閣寺等、有数の観光地に開設して11年になるグループホームである。女子寮を改装した3階建ての建物、階段が多い毎日の暮らしを生活リハビリとして、ADLの低下を防ぎ、利用者は自分の足で歩く暮らしになっている。散歩先や買い物先には困らない立地であるものの、土地柄近隣住民との交流に苦慮してきたが、少しずつ輪を広げてきている。職員は30代から60代の男女11人、ケアマネジャー、社会福祉士、看護師等有資格者が多いものの、半数が介護職経験が3年未満である。この条件をプラスに生かして、会議や連絡ノートの工夫によりグループホームのあり方の方向性を一致させ、チームワークの良い職場風土を作り上げている。家族は面会や母の日、敬老会、クリスマス会等の行事参加に積極的であり、家族の要望から有名なカニ専門店での利用者、家族、職員合同の外食会が実現している。利用者はそれぞれ生活史からくる個性豊かな人たちであり、ホームでの暮らしも自分流に楽しんでいる。グループホームとしての高いレベルを実現している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然・地域と統合した人間としての幸せな生活。を理念とし、実現化に向けて日々積み重ねている。理念の掲示(日誌・額への掲示)話し合いを行っている。カンファレンスの前に「理念」を踏まえた話等を導入し、会議等にも理念についての話を行っている。 それに加え、事業所の職員と話し合い、事業所理念を作成し、掲示している。	法人理念を踏まえて職員が話し合い、「生きがい」「よろこび」「自立」を「思いやり」が囲むイラストのホームの理念を作成し、玄関に掲示している。家族には毎月のたよりで、地域には運営推進会議で理解を図っている。利用者を思い込みで接することなく、さまざまなことを試みて、できたら励ますと利用者の笑顔が返ってくる。職員にとっても利用者のできることを見つけたという喜びが生まれ、それがこのホームの暮らしであると、いう。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等で、地域の隣人との挨拶・お散歩されている方への声かけを行うよう努めている。町内会との交流。 実際に町内会の方で、運動会・地蔵盆・地域のお祭りは参加させていただいている。	毎日のように近くの散歩やスーパーや市場に買い物に行き、利用者は出会った人とあいさつしている。喫茶店や甘味どころにも食べに行く。日吉神社や八神社の祭り、地蔵盆、地区の運動会に利用者は参加している。近くの公園で実施されている体操教室に参加し、近くの高齢者と交流している。元町内会長の子どもたちが利用者にプレゼントをもってきてくれる。観光客相手の似顔絵の絵描きさんにきてもらって利用者全員の似顔絵を描いてもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて話す機会を設けている			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本会議・ミーティング等において、イベント時等に今までの経験を活かすようまた、新しい発見を重視するよう努めている。 参加者の方に分かりやすくするために、写真、動画などで報告している。	家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員等が委員となり、隔月に開催し、記録を残している。利用者の状況、行事報告、事故報告等、率直にしている。委員からは「消防署と連携したほうがよい」「避難訓練は近所の家にも知らせたほうがよい」等、近くで土砂災害があったことを受け、意見が出ている。	運営推進会議は事業所を地域に知ってもらい、認知症について理解を深め、また地域に困っている人の役に立つ事業所になるための話し合いをする会として、警察署長、消防署長、銀行店長、郵便局長、スーパー店長、小中学校校長等々、広い立場の人の参加を求め、充実した会にすることが望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	要介護認定の申請の際への窓口訪問。地域の方々とは勿論の事、消防・警察・役所等への理解と協力を更に深めていきたい。	京都市や左京区の担当課とは報告、相談等連携を図っている。左京ケア会議に参加し、情報交換している。京都グループホーム協会に加入し、同業者としての情報交換や研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに努めている	マニュアルの設置。 社内研修(新任・現任)において周知徹底を図っている。社内研修については、毎年継続的に実施している。	「身体拘束をしないケア」に関して契約書に明記しており、マニュアルを作成、職員研修を実施している。職員はスピーチロックについても認識している。玄関ドア、各階の階段等、施錠されていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルの設置。 社内研修(新任・現任)において周知徹底を図っている。社内研修については、毎年継続的に実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についてのセミナー参加を検討。また、現在成年後見人制度対象者について入所時等に勤めるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行えるよう、また、質問等を行える時間を設けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。 「ご意見・ご要望用紙」の説明と意見箱の設置を、運営推進会議にて説明する。 運営推進会議にて、アンケートを実施する。課題については運営推進会議にて報告する。	家族には毎月たよりを送付し、翌月の行事案内と職員紹介をしている。また利用者ごとに状況を書いた個別の便りを送っている。家族の面会は多く毎週来る人もあり、利用者を外出、外食、外泊に連れ出す人も多い。母の日、クリスマス会、誕生日会、外出等の行事に参加し、利用者と共に楽しむ家族も多い。「植物園の桜がきれいなので花見にどうか」「折り紙教室をしてほしい」「利用者と一緒にの外食会に参加したい」等、家族は積極的に意見を述べている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時、受け付けており、また会議・ミーティング・職員間の報告ノートにて、よりよいサービスへの意見や提案を具現化する機会を作るよう努めている。 職員面談の実施	業務改善会議とケース会議により職員間の連携を図っている。外部研修は情報を見た職員の希望をもとに受講料の補助と勤務日扱いで受講できるようにしている。資格取得についても推奨している。法人内研修プログラムをもとに事業所内での研修を実施している。業務改善会議では「利用者ができることには手を出さないように」「毎日換気が必要」「夕方は業務に追われずに利用者との時間を大切にしたい」等、職員は積極的に意見を言っている。	
12		○就業環境の整備	人事考課により、各職員の評価や努力、勤務状況に基づき業務改善や環境改善、研修支援等を行う。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	況や業務内容を運営者に管理者が報告を行い、把握に努めている。 評価する機会を設け、各職員に向上心を持ってもらえるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員は研修計画に沿って、基本的なことを教えている。定期的に、認知症ケア、パーソンセンタードケア等の専門的な内容から、虐待防止や感染防止等についての基本的なことも研修している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させている	同業施設(グループホーム)との見学・意見交換の受け入れ、また他同業者(他サービス事業者)の見学を受け入れている。 認知症グループ協会 京都支部の研修に参加		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を取り入れ、利用者・家族からの聴取に努めている。ただし、入居時の質問事項の細分化は行っており、ニーズを収集する時間(見学と、利用前の利用者宅及び入所施設の訪問)を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時、グループホームとはどんなサービスなのかという説明と家族が抱える問題点や不安感を聴く時間と答える時間をもうけている。入所に対する不安は、ケースによりグループホームでどのような介護が行えるか例をあげたりすることで、利用が難しいと考える家族に対しても、グループホームの可能性について話すよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのケースによるが、状況次第では、他のサービスについての説明を行うこと、利用者の現在必要としているサービスは何なのかというサービスの抽出への助言について話し合いを行う時間をもうけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべく、職員と利用者の方が一緒に生活できる機会を作るように努めている。買い物に一緒に行って、調理を共に行い、ご自分で好きな量を配膳して頂き、食器を洗い、片付ける。と食事というキーワードだけでもこれだけの事があり、出来る事はやって頂き、職員が「ありがとう」という関係性にも努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントについては複数の家族が参加できるような促しや、イベントでもなるべくご家族とご利用の方が一緒に出来るような事を取り入れ、共に喜んで頂ける機会の提供。一人のご利用者の方に対して、複数のご家族が参加しやすい環境を提供する。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人にも、施設の行事案内や広報誌をお送りしている。 馴染みについては、我々としても大切にしたいと考えている。場所等については、希望があれば、お連れしたり、ご家族にお願いするようにしている。実際に馴染みの方と関係を継続されている方もおられますので、その関係を大切にしていきたい	利用者がかつて住んでいた近くの三条商店街に同行し、馴染みの人に会い、利用者との懇談が弾んでいる。同様に以前住んでいた宮川町にドライブしたり、修学院に行き、散歩している。現役のころ、ずっと教師をしていた利用者の教え子が毎月花をもって面会に来てくれる。祇園祭や五山の送り火等、利用者の馴染みの伝統行事には参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時に喧嘩や諍いはあるものの、関係構築の為に努めている。 コミュニケーションが難しい方については、職員が関わるようにしている。洗濯物を皆で協力してたたんだり、外周りの掃除も同じように協力して実施できる環境を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時及び退所後の支援・相談の対応を行うよう努めている。 お手紙を送ったりする事により、つきあいを大切にするように努めている。利用者退所後の家族の電話・来園時の協力についての説明。 また、利用者外でも相談者(元見学者等)への相談は随時行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべく、ご本人の言葉(希望・不満等)を汲み取れるよう努めている。その内容をケアプランに反映したり、ご家族構成や生活習慣を記録としている。	利用者の情報は独自のアセスメントシートを使い、記録に残している。身体状況と認知症の状況を書いている。北海道旭川生まれ、京都生まれ、映画の仕事、事務員等の生活史や編み物、読書、ピアノ、子ども等、好きなものや趣味の情報を記録している。利用者の思いは「一人で散歩がしたい」「読書が楽しい」「自分でできることは自分でしたい」「一人の時間も楽しい」等、利用者それぞれの固有の思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れることで把握に努めている。 また、毎月モニタリングを実施しており、日常の変化を検討し、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス、モニタリングを行い、介護計画に反映できるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族のご希望や意向を踏まえてケアプランを作成し、基本的には毎月カンファレンスを実施している。また、日々の生活の中でご本人やご家族の意向を反映している。基本的に、チームで話し合いケアプランを作成しており、今後も継続して実施していきたい	介護計画はケアマネジャーが作成し、カンファレンスで検討している。「日課になれる」「散歩」「家事に参加」「喫茶店に行く」「クラシックを聴く」「きれいなものを見る」等、利用者ごとに個別で生きがいのある暮らしの介護計画になっている。介護記録は介護計画ごとに書いてあるものの、介護実施の際の利用者の発言や表情等の記述がない。モニタリングは介護計画の項目ごとに、「介護実施状況」「目標達成状況」「評価」等がコメントされている。	介護記録は介護計画の項目ごとに、介護の実施、その際の状況、利用者の発言や表情を書くこと、また介護拒否の際はその理由等を記録に残し、モニタリングの根拠となるような記述にすることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録用紙の中にも、センター方式の内容を反映させ、ご利用者の方の言葉、表情等を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の習慣に合わせて、毎朝地藏参りにお連れしたり、喫茶店に行かれている習慣の方については、個別にお連れしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	資源マップの作成。近くのスーパー、薬局、喫茶店、本屋、和菓子屋等、ご本人の趣味、嗜好に合わせて、利用している。ご本人の趣味や習慣を伺い、必要に応じボランティアに来て頂いたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療の自由は尊重し、今までのかかりつけ医を大切にしていだいて。また現在、当施設の主治医についてもご理解いただけるよう、間に入り説明及び協力を努めている。	利用者のかかりつけ医として近くの医院があり、職員が情報をもって受診に同行している。往診も可能である。認知症に関しては専門病院に受診している利用者もある。歯科医は状況に応じて受診し、往診も可能である。歯科衛生士の資格をもった職員がおり、利用者の口腔ケアをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設看護職及び主治医との話し合いを密に行うよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院に関しての受け入れ体制、の報告・情報交換。家族への対応についての相談援助に努めるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについて看取りについての指針・体制を作成している。	重度化や終末期に関して「認知症共同生活介護事業所における看取りに関する指針」を作成しており、これをもとに利用者や家族の意向を把握している。「ここで最期まで見てほしい」という利用者もいる。職員研修については利用者の状態により、そのつど実施する方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防局の緊急対応についての講習を受けている職員を配置しており、またマニュアルにより事故防止策を講じている。連絡網(緊急連絡先)の準備と対策マニュアルの作成。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練(避難誘導・初期消火訓練)を利用者参加のもと、年2回実施している。運営推進会議等でも避難訓練をすることを地域の方にも伝えるようにしている。今年度、町内会長・地域包括・民生員に参加して頂いている。	火災に関して消火器、感知器、通報機、スプリンクラー、防火管理者等を備え、年2回の避難訓練を消防署の協力を得て実施している。その際地域の人の協力はなく、夜間や抜き打ち、地震等の訓練は実施していない。備蓄とハザードマップを備えている。	避難訓練には地域に人の協力を得ること、夜間や抜き打ち、地震、暴風雨災害に関しても訓練を実施すること、坂道の上という状況を考慮して職員の身に付くように訓練は年6回くらい実施すること、以上の3点が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全室個室対応。鍵をかけることは可能である。トイレについても鍵をかけることができるようになっている。言葉かけや対応については、カンファレンスや研修を行い、周知している。	接遇マニュアルがあり、職員研修をしている。利用者への対応では、年長者として尊敬の念を忘れずに、敬語を使うのは当然、赤ちゃん言葉は厳禁という点を注意している。飲みたいものや着たい服の選択等、利用者が発言できなくても表情やしぐさから、思いを把握するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身での決断。援助時の促しに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の体制を大切にしている。朝ごはんが遅い人や、就寝時間についても、生活習慣やご希望に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベントの日にかみかざりなどをプレゼントしたり、希望に合わせ、化粧水やマニキュアを塗るなどして、おしゃれを楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本の献立は、法人内の栄養士が作成した献立を基に実施している。買い物は週に3回程度で、天気の悪い日以外は、利用者の方と一緒にやっている。調理の手伝い、片付け、配膳はご自分の好きな量を温かい物は温かく、冷たい物は冷たいまま提供できるよう努めている。イベントや誕生日、外食については利用者の希望に応じ対応できている。	法人の栄養士作成の献立を基本とし、利用者の希望を入れながら、買い物と一緒にやっている。時には近くのパン屋へ焼き立てパンを買いに行く。調理、味見、盛り付け、後片付け等、利用者と一緒に実施している。食卓には一輪挿しに花を飾り、会話をしながら、食事を楽しんでいる。母の日は近くから豪華なお弁当をとったり、クリスマス会では手作り、花見には手作り弁当をもってでかける等、イベント食が豊かである。食事摂取が困難な利用者には、食器の形や色を変えたり、おにぎりにする等工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表の作成・個別の対応についての把握により対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	MC（モーニングケア）・NC（ナイトケア）・歯科受診により対応している。 3回の食後に口腔ケアの支援を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターン表の作成やトイレの誘導の声かけにより対応している。ケースカンファレンスを通じて、おむつが必要かどうかの取り組みも行っている。	トイレでの排泄を、という方針のもと、排泄チェック表を記録し、それぞれの排泄パターンを把握し、声掛け誘導している。紙パンツが布パンツに、パットの必要がなくなる等の改善をみている。夜間もポータブルトイレを使用する等、工夫している。排便も歩行等の運動、牛乳や食事により、自然排便を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録物、服薬・塗布薬の個別化と表作成により対応している。 予防の為に乳製品を提供したり、定期的に散歩を行う事により予防に努めている。排泄表と排便チェックの作成		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望により、入浴回数を増やしている。	浴室は地下にあり、広い。週3回を目標に支援しており、ゆず湯やしょうぶ湯も楽しんでいる。利用者は好きな音楽を聞いたり、職員との会話を楽しんでいる。生活習慣として銭湯に入ることが入浴と思っている利用者はなかなか入れないことも多いものの、工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間の定めを押し付けず、自身の生活パターンに合わせている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	記録物、服薬・塗布薬の個別化と表作成により対応している。 往診記録・受診記録の作成		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除や洗濯たたみ、水撒き、水やり、食器拭き等の家事は、ご本人の意向を伺い、分担できる範囲で実施している。買い物、ドライブ、地蔵参り、塗り絵、歌を歌う、おやつ作り等、利用者の意向に沿って実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	喫茶店の利用、散歩や買い物が主となるが、外出については職員が共に出かける。家族へ利用者と共に外出してもらえよう、促す(散歩・外食・医療受診など)よう努めている。 お一人で出かけたい希望の方は、能力に応じて対応している。	ふだんは歩いて付近の風光明媚な場所を散歩している。近くには市場、スーパー等あり、買い物にも出かける。初詣、花見、紅葉狩り等季節の外出も含めて、ドライブで植物園、平安神宮、八神社、岡崎神社等々、付近は観光地でもあり、出かける先に困らない。吉田神社への節分詣では階段、坂道を歩けたという喜びがある。比叡山等、遠方にも出かけている。肉まんを食べたい、焼き芋等の声と一緒に買いに出かけたり、喫茶店へコーヒーを飲みに入ったり、おぜんざいを食べに行ったり等、個別の外出をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理できる方については、自身で所持してもらい。難しい方の場合でも買い物時にお財布よりお金を出し清算していただくように援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用をしてもらっている。また、手紙については代行で投函する場合もあるが、郵便局へ行く場合もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備に努めている。 居間については、カレンダー及び季節感のあるものを設置している。	玄関ロビーに応接セット、クリスマスツリー、大きな花瓶に花を活け、職員の顔写真と氏名を明示している。2階のリビングはオープンキッチンで、3つの食卓に利用者が集まっている。食器棚、CD、大正琴、本や新聞、一輪挿しに花、筆記具、パソコン等々、狭さが家庭そのものである。利用者を不穩にするような光、音はない。手作りカレンダー、時計を壁に掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり	ロビーの開放及び居室により自身の生活の確保		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	に努めている。 ロビーにアルバムを配置してより寛げるよう工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持込をうながし、レイアウトは極力ご利用者及びご家族に委ねるよう努めている	居室は洋間でクローゼットがついている。大きな窓が東山に向かって開いており、明るい。利用者はたんす、ベッド、机、椅子等を持ち込んでおり、自分流にレイアウトしている。若いころ描いた風景画の額、いま描いた野菜や魚の絵、その前に小さなマスコットをいっぱい並べ、壁には折り紙作品の額を掛けている。書棚には好きな本を並べ、個性的な一室となっている。カレンダー、時計があり、季節は窓からの風景が教えてくれる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置。及びスノコ等による高さの調節等に努めている。階段利用のため階段設備については職員による付き添いを行うことで安全確保に努めている。階段昇降機の設置。手すりの追加にて利用者様のニーズに対応している。		